



**写真等無断転載禁止**

## 谷津田ビジターセンター開設のお知らせ

今年の下大和田のお米作りに参加されている方の中にはすでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、下大和田フィールドの下流・鹿島川合流部近くに若葉区の助成金を受けながら谷津田ビジターセンターを開設しました。

千葉市内に点在する谷津田も都市化やソーラーパネルの設置などで豊かな生物多様性が失われつつあります。



谷津田ビジターセンター(千葉市若葉区中野町)

都心から車で一時間足らずにある谷津田は将来の千葉市の宝なのですが、その存在や重要性はあまり知られていません。この谷津田をもっと多くの人に知ってもらうために、また将来にわたり子どもたちに貴重な自然を残していきたいという思いから、地元の方々と都心部に住む人々との繋がりを作るきっかけになればと、このプロジェクトを始めました。

具体的には、米づくりや森の手入れなどの活動に加え、谷津田の木や草花を使った自然工作会や他の谷津田で活動されている団体との交流会、森林再生のための「ドングリ苗作りプロジェクト」、谷津田の耕作放棄をこれ以上進めないために地元稲作農家さんのお米を購入して応援する「お米プロジェクト」、下大和田だけでなく谷津田のフィールドトレッキングや野点の谷津田カフェなど、皆さんが参加して楽しめる谷津田のさらなる魅力を見つけていきたいと思っています。

千葉市若葉区 伊勢戸 将司

イベント・プロジェクトのご案内は会員相互の(Chiba-eco グループ)のメーリングリストでご案内いたしますが、Facebook 谷津田ビジターセンターをフォローしていただければタイムリーな情報をお届けいたします。



カッティングボードワークショップの作品(2022年8月28日)

上の写真は、8月の夏休み時期に行った、金親町谷津で伐採された檜の木を使ったカッティングボードのワークショップの様子です。参加された皆さんには谷津の森に生えている木の特性などの説明の後、思い思いのカタチを作ってもらえて楽しんでもらえた様です。



谷津田ビジターセンター

〒265-0051 千葉市若葉区中野町 1403

株式会社 伊勢戸銘木店内 FAX: 043-332-7660

email: yatuda.life@gmail.com

# お米にまつわるミャンマーの話

## ～第4回：ミャンマー人のソウル・フード「モヒンガー」～

千葉市若葉区 岩沢 久美子

ミャンマーでの暮らしは楽しい思い出ばかりでしたが、苦勞したこともありました。中でも一番辛かったのが毎週のようにある早朝の出張でした。仕事の関係上、ミャンマー政府関係者との会議が多く、会議のためには首都にある省庁を訪れる必要があります。

ミャンマーの首都はというと、少しミャンマーに詳しい人ならヤンゴンと答える方が多いのではと思います。ところが、実はミャンマーの首都は国軍政権下の2006年に、ヤンゴンから北に400キロほどの位置にあるネピドー（王の都）と呼ばれる人工都市に遷都しています。私の職場を含めてほとんどの企業や団体事務所はまだヤンゴンにありましたが、省庁機能はほぼ全て首都ネピドーに移動しているため、政府関係者との会議では、庁舎のあるネピドーに馳せ参じる必要がありました。そのネピドー行きの飛行機がいつも午前7時の早朝便なのです。私が着任するほんの数年前までは、ヤンゴン＝ネピドー間の移動は陸路以外手段がなく、コンクリート舗装の道路を片道5、6時間かけて移動していたというので、大きな声で文句は言えません。それでも、早朝出張を週1～2回のペースでこなす生活、それはそれで大変でした。

朝7時の便に乗るためには、まだ外が真っ暗な5時に起きて、急いで身支度を整えて5時半には家を出ます。ミャンマーの政府関係者と会う時は、ロンジーと呼ばれる長い巻きスカートの民族衣装を着ることが通例となっており、私も出張の日はずらロンジーを着ていました。大急ぎで準備をして家を出て、タクシーをつかまえて空港に向かいます。眠い頭のままタクシーに乗り込むと、よくラジオからはお経が流れていました。ミャンマーのお経は、厳かでありつつ、緩やかなメロディーがあり、歌っているようにも聞こえます。そんなお経を聴きながら、ゆっくりと空が白んでくる



ミャンマーの民族衣装ロンジーを着た私。バックはシュエダゴン・パゴダ。ロンジーは生地を買って仕立て屋さんにあづからせて貰う。民族ごとに様々な柄がある。

のを眺める空港までの道が好きでした。

空港に着くと、チェックインをして搭乗券を受け取った後、搭乗時間まで少し待ち時間があります。そんな時、空港にある食堂で簡単に朝食を済ませることがよくありました。そこでよく食べていたのが、今回の主題である米粉の麺料理「モヒンガー」です。これまでミャンマー人がいかに白米を愛しているかをお話ししましたが、米粉の麺もよく食べ、特にこのモヒンガーはミャンマー人のソウルフードとも言われ、朝ごはんの定番です。



モヒンガー(左下にある器に付け合わせの天ぷら、茹で卵や薬味を入れて食べる)

モヒンガーは、ナマズでとった出汁に身を混ぜたとろみのあるスープに細い米粉の麺が入っています。トッピングにアヒルの茹で卵、野菜や豆の天ぷら、練り物といった具材や、刻んだ小ネギ、パクチー（コリアンダーの葉）、レモン、赤唐辛子などの薬味が一緒について来ます。スープは濃厚な煮干し出汁のようなしょっぱい味ですが、麺は米粉麺なので軽く、早朝でもお茶漬けのような感覚でさらさらと食べられます。大鍋で作りおいたものをよそって出すだけなので、注文するとすぐに出るので忙しい朝にはぴったりなのです。

ミャンマーで食器というと大抵はスプーンしかなく、モヒンガーのような麺類もスプーンで食べます。スプーンですくうと麺が長くて食べづらいので、スプーンを器の縁に押し付けて麺を擦り切りながら食べるのです。長い麺をわざわざ細かく切って食べるというのが日本人的には不思議でしたが、ロンジーを着て、見よう見まねでスプーンで麺を切る技を身につけてモヒンガーを食べていると、自分もなんだか少し誇らしい気がして来ました。

そうしてモヒンガーを食べ終わる頃、搭乗を知らせるアナウンスが流れてきます。搭乗ゲートをくぐ

り、外に出ると空はすっかり夜が明けていて、これから暑くなる気配をうっすら含んだ心地よい朝の風を頬に感じながら飛行機に乗りこみます。そんな、

なんでもない朝の風景が今はとても印象深い思い出の一つになっています。

## 禾（のぎ）の秘密を探れ！ ～米についての針、なんのため？～ ⑤ 最終回

千葉市中央区 緑町中学校1年生 小橋 里菜（編集：母）

### 13. 改めて塩水選の考察

全ての観察・実験を終えた後に改めて塩水選実験の考察を行いました。

大昔、稲は他の植物のようにぼろっと種子が落ちる植物で、たまたま穂が落ちない稲ができたものを人間が栽培し始めたのではないかとされているようです。

禾があることで、丁度良い深さと向きで埋まることができると、禾がある（または、禾の強度が高い）種もみが胚乳を多く含むよい種もみであるために「主に禾がある種もみが子孫を残す役割を担っていた」のではないかと思います。

一方、禾がない（または、禾の強度が低い）種もみは水に流されやすくなります。胚乳が少ないために軽く、さらに流されやすくなるでしょう。これは「禾がない種もみは子孫を残す役割を担っていなかった」といえるのでしょうか？私は「禾なし」の種もみにも大事な役割があったのだと考えます。禾がな

い種もみは子孫を残す確率は低くなるものの、遠い所に生存場所を広げるという役割をあたえられていたのではないかと思います。

### 14. 感想

「禾について調べたい」と言った時、父や母に「難しいからやめたら？」と止められましたが、私は今どうしても知りたいと思って研究を続けました。ここに載せていない実験や観察も沢山あります。なかなか結論が出なかったので大変で苦しいこともありましたが、いろいろと試したり考えたりするのは楽しかったです。そして何よりも人間に厄介者にされていた禾は、人間が栽培する前の大自然のなかでは大きな役割があったということが分かって嬉しかったです。お米のことを更に好きになりました。スタッフの皆様、いろいろと教えてくださってありがとうございました。（おわり）

## 新浜の話56

### ～RSPB（王立鳥類保護協会または英国鳥類保護協会）～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

世界最大のNGOと言われるRSPBは、たしかイギリス全人口の10分の1の会員を擁していたのではないかと思います。ロイヤルを冠するので「王立」と訳されたり、「英国」と訳されたりしています。日本野鳥の会と性格がよく似ていますが、規模が違います。

RSPBの黎明期（第二次世界大戦直後）から鳥の保護区の運営を積極的に進めてこられたハーバート・アクセルさんとの知己を得たのは、1980年代でした。ICFのアーチボルド博士と同じく、野鳥観察舎を訪問された時にお会いしたのですが、実はその前にアクセルさんが書かれた「ミンズメア ～

ある保護区の肖像～」を茂田良光さんの紹介で読んでおり、その中の保護区造成の方策に強く興味を持っていました。立場がよく似た私たち夫婦にアクセルさんは共感を持たれ、1992年に出版された「鳥と人 - ハーバート・アクセル自伝」を送っていただきました。卵収集から始まった鳥への強い興味、そして保護区運営や鳥の保護活動でのさまざまな実践、黎明期のRSPBがたどった足どりなどがユーモアたっぷりに生き生きと描かれています。泣いたり笑ったりしながら翻訳したものの、出版社が見つからなかったため、ウェブサイト「小説家になろう」に発表しています。

# スロマン

作：つやまあきひ  
あきひ ②



つやまあきひウェブサイト

21世紀絵コロジ〜 <http://www.21eco.net>

活動でのさまざまな実践、黎明期のRSPBがたどった足どりなどがユーモアたっぷりに生き生きと描かれています。泣いたり笑ったりしながら翻訳したものの、出版社が見つからなかったため、ウェブサイト「小説家になろう」に発表しています

そのころ、佐藤達夫さんが一生の仕事として観察舎と保護区で働く決意をかためてくれたこともあり、アクセルさんとのやりとりで、RSPBでの研修が具体化しました。

一匹狼の石川一樹さんとは対照的に、達夫さんは人懐こく、さみしがり屋でした。一樹さんにもラブレターなみにせつせと手紙を書きましたが、達夫さんには手紙に加えて時々電話も。携帯電話はまだ普及しはじめで、家電話から宿舎にかけるのですが、イギリスと日本の時差もあり、うまくつかまえるのはなかなかたいへん。「聞こえます？今、モリフクロウが鳴いているんです」電話口の向こうからにぎやかな女の子たちの声が聞こえてきて「イタリアの高校生たちが来ています」わざわざ日本から来たのだから、と、サンカノゴイのレーダー追跡などを優先的にやらせてもらって、「なんであの人ばかり」と思われる、とかえってプレッシャーになったことも。それでもみんなが「タツ、タツ」と声をかけ、達夫さんもあやしげな英語で話しかけて、かわいがられていました。

ボランティアは土曜から次の土曜まで、1週間が基本単位。達夫さんのように、何か月も滞在している人もいました。最初は右も左もわからないけれど、先輩ボランティアさんに教わりながら、3、4日もたつとりっぱな戦力になっています。何しろ鳥の保護区管理の手伝いですから、仕事の合間には鳥を見に行く時間もとれます。夏休みなどはずいぶん前から予約がいっぱいの人気だとのこと。

RSPBに限らず、イギリス全土のあちこちの団体でこうした泊まり込みのボランティア受け入れが行われていて、鉾山跡の荒れた土地の緑化など、有意義で楽しめる休暇の過ごし方、「グリーン・ホリデイ」として定着しています。日本でもガイドブックが出版されています。1995年、達夫さんとアクセルさんを訪ねて、画家の箕輪義隆さん、山階鳥類研究所の吉安京子さんといっしょに初めて訪英しました。ミンズメアやダンジネスなどの保護区をアクセルさんにご案内いただき、本の中で親しんでいたアーサー・ランサムの世界をも垣間見たすばらしい経験でした。

アクセルさんは（「僕はパート。そう呼んで」と言われましたが）、生涯を共にした奥様のジョーンさんが亡くなられてからわずか1カ月後の2001年11月、86歳で亡くられました。おおらかで暖かく、懐の深い大切なお友達。私のお師匠さん、ブリティッシュ・ダディでした。

【発送お手伝いのお願い】 ニュースレター2022年11月号（第303号）の発送を11月7日（月）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか ..... キリトリセン .....

住所 〒 \_\_\_\_\_

ふりがな \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ Tel \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記：昨年同様今年も下大和田の谷津田では、アカトンボが激減しています。特にアキアカネやナツアカネはほとんど見られません。先日訪れた若葉区金光院の東に広がる谷津田でも同じような状況でした。皆さんの周辺はどうでしょうか。ぜひ当会まで情報をお寄せ下さい。よろしく願いいたします。 mud-skipper



## ☆千葉市・ふれあい自然観察会 2022年9月25日(日) 報告：赤シャツ親父

毎週の様子に接近する台風が開催できるか気をもみましたが、当日はとても爽やかな秋晴れとなりました。7家族19名の参加があり、YPP 田んぼにて金ざるを用いた水生昆虫採集・観察を行いました。今季は2歳～終齢まで大小様々な大きさのギンヤンマのヤゴが沢山出現しました。次々に現れる水生昆虫やドジョウなどに子どもたちは歓声を上げ、親子ともに楽しんでいる様子でした。(参加 大人11名 子ども10名)

### 【谷津田・季節のたより】

＜下大和田町＞ 報告：田村光範

9月 田んぼには竹で組んだオダに天日干しの稲束が干されました。今年は天候が不安定でしたが、台風ルートから逸れたため大きな被害もなく順調に干すことができました。

お米の水分量は15%が適正と言われています。雨などが多い年は、水分が多く保管時にカビが発生する事があるので、脱穀後も天気の良い日によく干すことをオススメします。

脱穀も無事終わり、残るは粃摺りを待つばかりです。早く美味しい新米が食べたいですね。

秋の田んぼは色づいた古代米の穂が秋風に揺れ、虫の音が心地良く聞こえてきます。

＜小山町＞ 報告：たんぼぼ

9/2 リスさん忙しそうに活動中、田んぼを泳いでびっくり！

9/3 古代米緑出穂

9/16 小学校田んぼに彼岸花咲く

9/19 ツクツクボウシとエンマコオロギの共演

### 【イベントのお知らせ】 主催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

#### ＜下大和田谷津田＞

・第283回 下大和田YPP「古代米の稲刈り」

日時：2022年10月15日(土) 9時45分～15時 ※雨天などの場合は翌16日(日)に実施

持ち物：長袖長ズボンの服装、田んぼ用長靴、軍手、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物

参加費：米づくり年間参加者以外300円(小学生以上)

・森と水辺の手入れ

日時：2022年10月16日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内容：森の散策路の整備をします。※15日が悪天候の時は、古代米の稲刈りを実施。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

・第6回 森の手入れ

日時：2022年10月23日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内容：森の散策路の整備をします。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第274回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日時：2022年11月6日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内容：秋深くの花、木の実、葉の色付き、秋たけなわの谷津を巡りながらトンボの調査も継続して行います。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：100円

#### ＜小山町谷津田＞

▼第208回 小山町 YPP「古代米の脱穀」

日時：2022年10月29日(土) 10時00分～ ☆雨天中止

場所：りんどう広場

※ 参加ご希望の方は、赤シャツ親父 (e-mail: tomizo\_i@nifty.com)までご連絡下さい。

